

■ グループ紹介

るあらゆる熱交換器について豊富な標準型を有しております。

一方陸上用熱交換器については、当初は、主として造船所から発注される発電用ボイラ、タービン関係の熱交換器を手がけて来ましたが、昭和39年より工業用水不足の解決とランニングコスト低減を目的として石油精製、石油化学業向の空冷式熱交換器の製作を開始し、本格的陸上用熱交換器のメーカーとしての道に踏み出しました。この空冷式熱交換器は、斯界より非常に好評を受け、近年では、石油精製、石油化学プラント、塵芥焼却プラントに使用されるようになりました。

国内はもとより、ペルー、クウェートなど、工業用水の少ない国々の産業開発に大きく貢献しています。

この空冷式熱交換器においても、わが国随一の専門工場を有し、フィンチューブからファン迄、一貫して製作し、しかも騒音防止技術を取り入れた設計を行っております。

さらに、エネルギーコスト上昇に対応して省エネルギー型の熱回収用熱交換器とそれを組み合わせる熱回収システム、更にヒートパイプによる熱回収システムや廃熱回収ボイラの製作販売を開始し、時代の要請に応えています。

3 公害防止機器

近年、産業公害が問題となっておりますが、当社は公害防止機器に意欲的に取り組んでいます。すなわち、海水の汚濁を防止する油水分離装置、油排出監視制御装置(コンピューター付)、汚水処理装置、騒音公害を

防止する騒音防止装置、原子力発電に伴う放射性廃液による汚染を防止するための放射性廃液濃縮装置等を製作しています。

騒音防止装置は、豊富なコンポーネントを有し、設置場所、用途に応じた最適な装置の設計を行っており、騒音公害の増加に伴い、その将来が大いに期待されています。

4 LNG関連機器

近年、無公害エネルギーとして大きくクローズアップされておりますLNG、LPG、タンカーの爆発事故を防止するためには純度の高い不活性ガスを必要としますが、当社のイナートガス発生装置はこれらの用途のためにとくに開発されたもので、最もきびしい条件で設計された装置です。

また、フリーガス装置はOILタンカー等可燃性、爆発性物質を輸送する際、人命の安全を守るため爆発事故防止に大きく貢献しています。また、超低温バタフライ・バルブはLNGの製造や輸送になくはならない製品で、完璧な品質管理のもとに製作され、従来バタフライ・バルブでは困難とされていた300lb/in²の順・逆流に漏洩ゼロというすぐれた性能を誇り好評を得ており、とくにLNGプラントの液体ラインに圧倒的信頼を得ています。

所在地：〒555 大阪市西淀川区御幣島6丁目7-5

(文責：大屋 幸雄)

九州電力(株) 総合研究所

当研究所は、昭和27年2月に地域特性に根ざした技術的諸問題の研究開発を実施するため設立されて以来、時代のニーズに合った変遷を経て、現在は事務課と電力・電子応用・火力・土木の1課4研究室となっている。

この間、当社における電源及び輸送設備の建設運用に伴う技術的諸問題の解決に努力するとともに、新・省エネルギー技術などの研究開発に取り組んできている。

電気事業としての当面の技術開発の基本方針

電気事業が直面している経済的・社会的・国際的な経営課題を克服し、公益事業としての使命を果たすためには、技術開発の発展に期待されるところが極めて大きい。

このため、当社では、国の技術開発に協力するとともに、

■ グループ紹介

- (1) ライン部門の技術的問題点を的確に把握し業務に密着した調査・研究・試験
- (2) 九州の地域的特性に根ざした設備上や環境上の課題の解決に必要な調査・研究・試験
- (3) 地域社会の生活・福祉の向上に役立つ技術開発などを基本方針として研究開発を実施している。

研究所の組織業務内容

現在、総合研究所の人員は、所長以下 89 名(昭和 57 年 8 月 1 日現在)であり、組織と業務内容は次のとおりである。

(1) 事務課

研究計画の総合調整・立案，研究予算の運用管理，研究成果の評価・報告，技術情報の収集・提供，研究委託・共同研究などの契約，工業所有権の出願，その他所内事務など研究管理業務と研究サービス業務を行っている。

(2) 電力研究室

電力設備の効率的な運用，信頼度向上，保守の効率化，電力応用，省エネルギー機器などに関する調査研究，並びに電力機器，ケーブル，及び電気材料などの技術的問題点説明のための調査試験業務を行っている。

(3) 電子応用研究室

電力設備における電子応用技術，情報伝送の安定化・信頼度向上，電力系統の合理的構成・安定度向上，

自然エネルギー利用技術などに関する調査研究並びに電子応用技術，電力系統における技術的問題説明のための調査試験業務を行っている。

(4) 火力研究室

火力・原子力発電所の給水処理，地熱エネルギー開発に係る探査手法，熱水処理，海水淡水化などに関する調査研究並びに，火力・原子力発電所の水質管理・化学管理，及び金属材料試験など機器信頼度向上に係る調査試験業務を行っている。

(5) 土木研究室

構造物基礎地盤・土構造，構造物コンクリート・基礎コンクリートに関する調査研究並びに構造物の基礎設計，コンクリート品質管理に係る調査試験業務を行っている。

むすび

以上、当研究所の現状について極めて簡単に述べたが、今後とも当社の技術開発の中核として、国が進める大型技術開発の情勢，電気事業としての技術開発の動向を見ながら効率的な設備投資，高信頼度の電力設備の形成，地域社会に共感を呼ぶ技術の確立などを推進し，経営の効率化に努めていくこととする。

所在地：〒815 福岡市南区大字塩原字アイゾ 497-1

(文責： 富井 潤)

